



## 次世代(Z世代)とのネットワーク構築

当会の未来包装研究委員会は、“包装を通してあるべき未来を提案する”活動を継続している。最近は、生活者の皆さんに対し、包装が地球環境に対して持続可能であり、かつ、日々の生活に不可欠な存在であることを理解いただくためにはたらきかけも必要であると痛感。このため、次世代（Z世代）の方々との対話を試み、包装側、および生活者側に、それぞれどのような工夫や取り組みが必要であるのか模索中だ。TOKYO PACK 2022では東京農工大学の学生を交え、気候変動やプラスチック問題、食品ロス問題など世界の共通課題に対し、包装産業としてどのように社会に貢献し、発展を続けていくのか、クロスオーバーなトークセミナーを実施した。2024では多様な意見を持つ学生との対話を実現すべく、構想案を練っている。

4月22日の"Earth Day"に関連し、4月22日（月）～27日（土）の1週間、東京大学、東京農工大学、筑波大学、お茶の水女子大学の社会環境問題に取り組む学生団体が中心となり、地球のこと、持続可能性について考えるイベント"Japan sustainability week 2024"が開催された。その目玉は、最終27日の大学間交流イベント。特別に参加許可をいただき、学生とのさらなるネットワーク構築を試みた。

## 大学間交流学生限定のイベント "Sustainability Week" 参加報告

日時：2024年4月27日（土） 10:00～16:00

場所：東京大学駒場キャンパス KOMCEE West B1 MMホール

参加対象：全国で社会環境問題に取り組む学生

### 1) 活動内容を紹介

参加グループが活動内容を発表しあった。気候変動問題に関わりCOP開催期間に現地へ赴き提案するNGOや、学内の環境マネジメントシステムを運営するNPO、学内の食品ロス削減に取り組むサークル、各人が興味ある活動に参加する大所帯のサークルなどさまざま。

### 2) 交流会

席の近い者同士が6～7名で輪を作る。自己紹介、興味があることなどを語り合った。四大学以外からの単独参加者も臆することなく楽しむ。食品包装に興味を持つ学生にも出会った。環境負荷軽減などを理由にベジタリアンやヴィーガンを実践する学生は学内に一定数いる。昭和世代では殆どいないと言ったら驚かされてしまった。

### 3) workshop "CLIMATE FRESK"

"CLIMATE FRESK"はフランスで開発され、世界45カ国語、161カ国、約160万人の参加者に現在利用されている気候変動教育ワークショップ。IPCCの最新レポートをベースとした気候変動の基礎科学を学び、気候変動に対する行動をディスカッションする。気候変動の原因と起きている現象の因果関係を考え直すいい機会だとポジティブにとらえる者もいれば、未来に不安を煽るとネガティブにとらえる者もいた。気候変動が人間活動に由来するのであれば、その対応策もまた人間によって創り出さなければならない。科学的に立証されていないからといって、そのリスク回避を後回しにすることは許されない。このように非常に真剣にとらえる学生の心の葛藤のありようを強く感じ取った。

### 4) まとめ

学生とフラットに対話を楽しみ、学生の興味関心ごとから考えまで、様々な情報を受け取った。TOKYO PACK 2024のセミナーへの参加に意欲的なグループとも出会い、準備を進めている。ご期待あれ！



英語対応のチームもあり



終日参加した皆さん

写真提供 東京大学GX学生ネットワーク